

EBC(Evidence-based Control)研究会ワークショップ 2011のご案内

日時：2011年3月26日(土) 12:30~17:15, 受付は12:00より。

場所：東京農工大学 府中キャンパス 第1講義棟・1-25号教室「学会の第1会場」(東京都府中市幸町3-5-8)

http://www.tuat.ac.jp/basic_information/access/index.html#p2 を参照下さい。JR中央線国分寺駅より京王バス南口2番乗り場「府中駅行き」もしくは京王線府中駅より京王バス北口バスターミナル2番乗場「国分寺駅南口行き」に乗りし、『晴見町』下車(所要時間：それぞれ約10分, 7分)。

参加費：会場費等として、会の運営上大変申し訳ありませんが、本年度より2,000円(ただし、学生は1,000円)を受付時に徴収させていただきます。

参加申し込み：下記事務局に3月2日までに電子メールにてお願いします。申し込みをされた方には講演要旨をメール(PDF)で事前にお送りしますので、当日ご持参ください。なお、当日も会場にて受け付けを行います(12:00~)。

懇親会(会費5,000円程度)：京王線府中駅近辺で18:00より予定しております。参加をご希望の方は申し込み時にお申し出下さい(定員になり次第締め切らせていただきます)。なお、会費は懇親会場で徴収させていただきます。

プログラム

12:30 開 会

12:35~13:20 現地圃場試験の積み重ねによるビワ病害防除でのエビデンス構築

菅 康弘(長崎県農林技術開発センター)

長崎県の特産果樹であるビワの病害防除の現状と、生産者とともに取り組んだ現地実証試験でメタアナリシスの手法を用いて果実腐敗に対する耕種的防除の効果を推定した事例を紹介します。また、防除暦の策定の際に問題となっている事柄と、その解決に向けて実施している試験内容をEBC的に解説します。

13:20~14:05 薬剤防除試験成績の現場指導への活用事例ー岩手県における農作物病害虫・雑草防除指針を例にー

岩館 康哉(岩手県農業研究センター)

岩手県農作物病害虫防除指針を例に、薬剤防除試験の成績を現場での指導に活用している事例を紹介します。具体的には、キュウリ黒星病、ホウレンソウ萎凋病、ダイズ紫斑病の事例について、メタアナリシス等による防除効果の評価事例や、実際に防除指針を作成する段階でどのように活用しているか、事例を用いて紹介します。

14:05~14:50 水稻品種「まっしぐら」の穂いもちに対する減農薬防除体系別のリスク評価

倉内 賢一(青森県産業技術センター農林総合研究所)

青森県の水稲品種「まっしぐら」はいもち病に強いため、生産現場では様々な減農薬防除体系がとられていますが、農家は自分が選択する防除体系に十分な根拠が無いまま実施している現状があります。そこで、農家が体系を選択する際の一助となるように、いくつかの減農薬防除体系について穂いもちの減収リスクを評価した事例を紹介します。

一休 憩

15:05~15:50 パネルディスカッション

”EBC研究会が目指す、病害防除の研究とはーワークショップ7年目を迎えてー”

座長：川口 章(岡山県農林水産総合センター農業研究所)

EBC研究会は毎年開催するワークショップを中心に活動してきましたが、ここでもう一度、EBCの必要性や、今日、病害防除研究者に求められていることを再認識すべく、農業現場の第一線で活躍している研究者らと交えたパネルディスカッションにより、本研究会が目指す病害防除の研究について議論していきます。

15:50~17:10 新規薬剤の紹介

1. 展着剤の種類と機能 川幡 寛(JA全農 営農販売企画部 営農・技術センター)
2. 展着剤「まくぴか」の作用特性と上手な使い方 杉本 光二(石原産業(株)生物科学研究室)
3. 展着剤「ワイドコート」の作用性と上手な使い方 小川 一輝(日本化薬(株)研究開発部アグロ研究所)

防除の現場で展着剤を使用する場合、その機能を理解して使用目的に最適な剤を選択していく必要があります。ここでは、展着剤の種類によって異なる機能を活かした活用方法について、また、具体的に「まくぴか」と「ワイドコート」の作用特性を活かした現場での使用方法について紹介します。

17:15 閉 会

問い合わせ先：研究会事務局 東京農業大学農学部植物病理研究室 根岸寛光 (e-mail:negishi@nodai.ac.jp)